

解って使える英語順

3日間集中:特別プログラム 全18ユニット

		表現内容	英語は、SVOPの語順でいろいろな表現をしている
1日目午前	ガイダンス	VSOPお薦めの勉強法	英語は、発音が重要な鍵になるので、適切な発音を身に付ける方法をお伝する。英語学習の役に立つ、いろいろな参考書・学習システム・英語資料、方法を紹介。
	エッセンス講座	英語の本質	英語は、口語、文語に限らず「S-V-O-Pという一定の語順」で、先に「S-V」と「気持ちや判断」を言い、その後ろに「O-P」と「その内容(対象)」を言うようになっている。日本語的には「ギャル語順」と呼べる語順である。ビジネス・学問・会話、どんな英文でもSVOP。
1日目午後	UNIT-1	気持ちや状態の表し方①	気持ち・状態を表すには？ 先に「話し手の判断・気持ち」を「S-V」で言い、その対象(O)を前置詞句で言う。前置詞句が重要な働きをしているので、前置詞のコアな意味を理解する。
	UNIT-2	気持ちや状態の表し方②	動きや状態、場所を表すには、「気持ち判断」の部分で「前置詞」を使う。 英語は前置詞とその後ろの名詞が重要な意味を作っている。 個々の前置詞の意味を覚えよう。
	UNIT-3	動きの表し方	「動きを表す」には「up, out, off, away, ahead, behindなどの副詞」を使う。 副詞を使った表現が、最も英語的な表現なので英会話(口語的な表現)で多用されるが、日本人は使えない。
	UNIT-4	人/物/事柄の種類を表し方	人/物/事柄の種類を表すには、名詞を使うが、たいていは、その内容を詳しくする修飾語を、前に付けて使う。概念を表している言葉と具体的な物や人を表している言葉の区別
2日目午前	UNIT-5	気持ちの表現を豊かに表す①	「気持ちや判断に、補助的に意味を加える言葉」 は位置が決まっており、「中位の言葉」と呼ぶ。この場所に実にたくさんのいろいろな種類の言葉を使ってで発話を豊かにしている。
	UNIT-6	変化を表す基本動詞の使い方	go, come, get, make, turn, stand, fall, remainなどの基本動詞は、 事態や心の変化の様子を表す補助的な言葉なので有効に使おう。 基本動詞は、話し手の気持ち加える補助語。
	UNIT-7	名詞を説明する語句	名詞の説明語は、「前に付けるもの」と「後ろに付けるもの」と2種類ある。「後ろに付けるもの」を特に「ネクサス(Nexus)」と呼ぶ。 ネクサス(Nexus)が、英語の理解の核心である。
2日目午後	UNIT-8	～が有る・無い	英語で最も使用頻度の高い have の使い方:「～が有る・無い」という「存在」の意味には have を使う。have は S-V-O-P の最も基本の使い方をする動詞。熟語(イディオム)の一掃。
	UNIT-9	目的語に～させる①	基本動詞の使い方②:「相手に～させる(使役)」と言いたいときはS-V-O-Pの語順にする。 多くの基本動詞はこの語順で使える。 O-[V1]-P はネクサス(Nexus)になる
	UNIT-10	～している行為 doing	「～している最中である」という「そのときやっている行為」や「繰り返しやっている行為」を表すには doing を使う(進行形)。SVOPの中での位置によって働き、訳し方が違ってくる。
	UNIT-11	必ず～することになっている	to do(to-不定詞) は「これから[必ず]する[ことになっている]」という意味。SVOPの何処でも使う。位置によって意味が変わるのは、その位置によって働きが変わるためである。
3日目午前	UNIT-12	～された状態になっている	be done/-ed(受動態:～されている)の使い方。 done/ -ed と doing の意味の違いを使い分けるのが、英語のポイント。能動と受動の表現の使い分けは、発話者の気持ちの表れだ。
	UNIT-13	もう既に～になっている	Have done/-ed(完了形:～し終わっている)。 have が「今～がある」という意味なので「今の状態」を表していることに注意が必要。
	UNIT-14	目的語に～させる②	いろいろな言葉(to do, doing, done/ -ed, a do)を、S-V-O-PのPの位置で使うと、 一番英語的な表現=ネクサス(Nexus)になる。 SVOP感覚を身に付け、英語らしさをアップしよう。
3日目午後	UNIT-15	気持ちや判断の内容を1文で言う	S-V that-svo(that節)の表現は、「話し手の気持ちや判断を先に言う」という典型的な英語表現。英語の発話は、常に「気持ちや判断」を先に言い、その内容を後から言いましょう。
	UNIT-16	英語の敬語表現	英語の敬語表現は、S-V if svop のように、長い判断語(V)と文を作って表現している。さらに、will(would), can(could)などを組み合わせて、丁寧さの度合いを調整している。
	UNIT-17	Wh--- :疑問詞	8W1H:[who, what, when, where, why, how, which, whose, whom] も、that や if と同じように使う。SVOPが入れ子になり、複雑な内容をあらわすが、全体もSVOPでまとめられている。
	UNIT-18	理由・原因・条件・時の表現	理由や条件を表す補助文は、when, if, though, because などの言葉でつなげる。通常、両方の文にSVOがあるが、主文の主語(S)が複文と同じ場合は、s-v1 が省略される。

※ 受講までに「世界で一つだけの英語教科書」をご一読頂いておくと理解が深まります。特に、第6章が「敬語」の理解に重要です。